

看護職キャリア開発支援センターのあゆみ 2026

～ユニフィケーションによる地域看護力の底上げ～

発行元：大分大学医学部附属病院・医学部看護学科

発行にあたり

看護職キャリア開発支援センター センター長 油布 由美（看護部長）



急速に変化する社会構造や医療需要に対応し得る組織づくりと人材育成を目指し、当センターが発足してから6年が経過いたしました。

このたび、これまでの取り組みと成果、そして未来への展望をまとめた「看護職キャリア開発支援センターのあゆみ」を発行する運びとなりました。

本センターの最大の特徴は、「医学部看護学科」と「医学部附属病院」が強固に連携・協働する「ユニフィケーション」にあります。この強みを最大限に活かし、「教育プログラム開発」「研究支援」「地域交流推進」の3部門を中心に、院内におけるキャリア支援体制の再構築や臨床看護研究の推進、さらには専門看護師・認定看護師等の専門性を活かした地域貢献活動に邁進してまいりました。

各部門の精力的な取り組みにより、院内教育プログラムの進化や学会発表数の増加、地域における高度専門職の活動拡大など、着実な成果を上げております。

これらはひとえに、現場で質の高い看護を追求し続ける看護職の皆様と、ご支援いただいた関係各位の熱意の賜物であり、心より深謝申し上げます。

当センターはこれまでの成果を糧とし、今後は卒前・卒後を一貫したコンピテンシー評価への刷新や、高度専門職によるアウトリーチ型研修・在職派遣などを推進してまいります。

これにより、大学病院の知識と技術を地域社会へ還元するとともに、地域で得た学びを再び院内へ還元する「双方向の循環型キャリア開発」の実現を目指し、挑戦し続ける所存です。

本誌が、これまでの歩みを振り返るとともに、地域と共に未来の医療を創る新たな一歩となることを願っております。

今後とも皆様の温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

発行にあたり

看護職キャリア開発支援センター

副センター長 三重野 英子（看護学科長）



看護職員の専門職業人としての成長を支援し、臨床知を地域社会に還元することを目的として、2019年度に医学部附属病院看護職キャリア開発支援センターが設置されました。設置当初より看護学科長が副センター長を拝命し、看護学科教員も教育プログラム開発、研究支援、地域交流推進の各部門に参画し、看護部とともにセンター活動を推進してまいりました。

センターの運営会議では、看護職員のニーズを捉えながら、各部門の課題や取り組みについて、常に前向きで具体的な検討が重ねられています。限られた予算の中にあっても、メンバーのアイデアと行動力によって、一人ひとりの成長を支え、その成果を地域に還元しようとする活動が着実に積み重ねられてきました。

また、センターと両輪をなし、基礎教育から大学院教育・卒後教育を連続して捉え、ともに看護人材を育成することを使命とする医学部看護ユニフィケーション・システム推進委員会においても、委員長が学科長、副委員長が看護部長を務め、看護部と看護学科が定期的に協議を重ねています。

人口減少が進み、看護人材の確保と育成がますます重要となる今、看護の魅力と専門職として成長し続けることの喜びを、看護部と看護学科が一体となって発信していくことが求められています。これからもセンター活動を通して、ともに看護職を育て、地域の看護の未来につなげていきたいと思ひます。

もくじ

発行にあたり	
1. 設置の背景と目的	・ ・ ・ 1
2. 解決すべき設置当時の課題	
3. 組織体制の構築	・ ・ ・ 2
4. 6年間のあゆみ（3部門の軌跡）	
教育プログラム開発部門	・ ・ ・ 4
研究支援部門	・ ・ ・ 6
地域交流推進部門	・ ・ ・ 9
5. 6年間の成果と考察	・ ・ ・ 13
6. 今後の展望	・ ・ ・ 14

1. 設置の背景と目的

急速な時代の変化（人口構造の変化、タスク・シフティングの推進、特定行為の導入など）に対応できる組織づくりと人材育成を目的として、富永志津代初代センター長より提案されました。

当センターは、大学附属病院の強みを活かし、「医学部附属病院」と「医学部看護学科」が強固に連携・協働（ユニフィケーション）することで、教育プログラムの刷新や研究推進を目指しています。

2. 解決すべき設置当時の課題

医学部附属病院看護部では、年間延べ約1,900名以上が参加する多様な研修を実施していましたが、さらなる発展のために以下の課題が挙げられました。

- 1) 教育計画の再構築 : 現行プログラムのブラッシュアップ
- 2) 臨床看護研究の推進 : 現場の疑問を研究に繋げる支援体制
- 3) キャリア選択の拡大 : 専門・認定看護師の育成
医学部看護学科との人事交流
大学院進学促進
- 4) 地域連携の強化 : 地域医療機関や訪問看護ステーション
のニーズに応じた事業展開

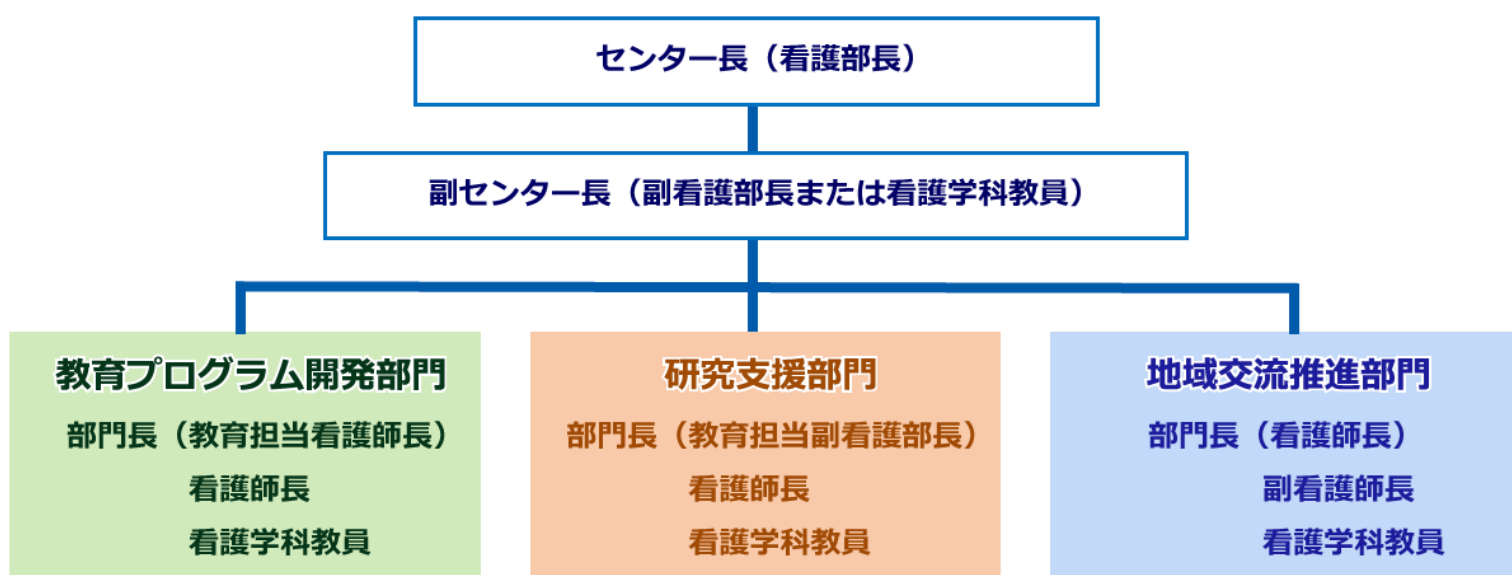
3. 組織体制の構築

「センター長（看護部長）」のもと、実務を担う3つの専門部門が、令和元年（2019年）12月1日に新設され、看護学科との協働により以下の事業を展開しています。

教育プログラム開発部門 ： 継続教育の企画・評価
基礎教育への参画

研究支援部門 ： 共同研究の推進
研究の推進
研究支援体制の整備

地域交流推進部門 ： 地域看護職への支援
助産師の能力開発
人事交流



教育プログラム開発部門	年度	部門長	構成員（看護部）		構成員（看護学科）
	令和2年	油布由美	嶋川由紀 中野智絵 江月優子	古田佳代子 井田久美 塩崎礼子	脇幸子
	令和3年	油布由美	嶋川由紀 中野智絵 江月優子	古田佳代子 井田久美 塩崎礼子	脇幸子
	令和4年	油布由美	金子美紀 井田久美	江月優子 首藤美紀	脇幸子
	令和5年	金子美紀	三宅清美 本多裕子	江月優子 中尾亮介	脇幸子
	令和6年	金子美紀	近藤あゆみ 本多裕子	江月優子 中尾亮介	脇幸子
	令和7年	金子美紀	近藤あゆみ 大宅隆博	本多裕子	脇幸子

研究支援部門	年度	部門長	構成員（看護部）		構成員（看護学科）
	令和2年	内田幸子	古田佳代子		吉良いずみ
	令和3年	大亀かおる	古田佳代子		猪俣理恵
	令和4年	藤本直美	佐田佳子		猪俣理恵
	令和5年	内田幸子	佐田佳子		猪俣理恵
	令和6年	畑中明子	芝田香織		岩本祐一
	令和7年	畑中明子	芝田香織		岩本祐一

地域交流推進部門	年度	部門長	構成員（看護部）		構成員（看護学科）
	令和2年	畑中明子	眞名井理恵 佐藤千鶴	清山真弓	小野光美
	令和3年	畑中明子	眞名井理恵 佐藤千鶴	清山真弓	小野光美
	令和4年	畑中明子	眞名井理恵	清山真弓	小野光美
	令和5年	畑中明子	清山真弓		小野光美
	令和6年	佐田佳子	大末美代子		小野光美
	令和7年	佐田佳子	大末美代子		小野光美

4. 6年間のあゆみ（3部門の軌跡）

【教育プログラム開発部門】

1. 実地指導者育成研修に卒業前学生参加の技術演習を開始

新人看護職の指導者となる実地指導者育成のための研修に、令和3年度から看護学科の4年生が参加し、採血や輸液ポンプを使用した点滴管理等、実際の技術を指導する演習を導入しました。

【研修生・学生の参加者数の推移】（名）

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	総数
研修生	21	20	21	22	20	19	123
学生	18	11	10	23	8	16	86



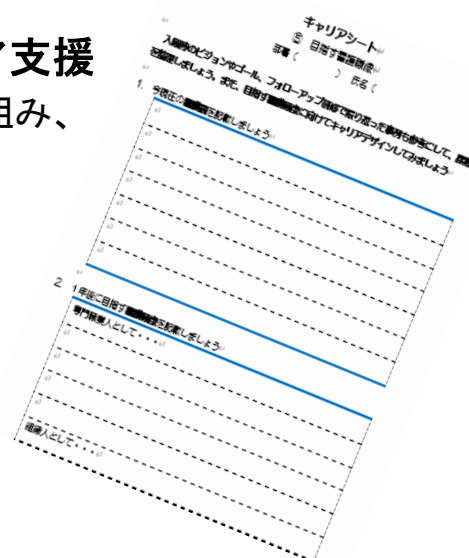
【研修生の声】

- ❑ 卒前学生への演習で指導の難しさを感じたが、新人看護師を迎え、臨床で指導する際のイメージができた
- ❑ 卒前学生と関わることで、学ぶ側のニーズと教える側のニーズに相違があることに気づくことができた。新人看護師の思いを確認しながら、自分たちの考えも伝えていくことが大事だと感じた

2. ポートフォリオの見直しによる早期キャリア支援

入職後から組織社会化・職業社会化支援に取り組み、入職後2年間の初期キャリア支援を目的にキャリアシートを作成しました。

キャリアシートの内容を分析し、令和7年には新人看護職の社会化の変容について看護研究発表にも取り組みました。



4. 6年間のあゆみ（3部門の軌跡）

【教育プログラム開発部門】

3. ジェネラリスト研修（クリニカルラダーレベルⅢ対象）のブラッシュアップ

令和4年度から教育担当者育成研修をクリニカルラダーレベルⅢの取得を目指す看護職の教育支援力の向上を目指す研修へ再編成しました。

また、令和6年度には看護と倫理研修に、看護学科教員がファシリテーターとして参加し、教育や倫理問題を学ぶ機会を作りました。



【成果】

- ❑ 支援場面の教材化等で、トップリーダーの教育支援する力の向上を支援する研修へブラッシュアップさせました
- ❑ 学科教員との協働で、現場の倫理問題を多角な視点で考えることができました

4. 院内外の看護職が共に学ぶ場の構築

地域看護研修（クリニカルラダーレベルⅡ対象）を基盤に、地域の関連・病院施設との人材交流を目指した研修へ令和7年度から発展させました。

【成果】

- ❑ 院内研修生が、従来の由布地区に加え大分市関連・病院施設の見学研修に参加し、多様な学びを実践に繋げる機会を提供しました
- ❑ 院外研修生5名（主任クラス）が3日間の研修期間中、当院副看護師長のシャドウイング等で学びを深めています

院外から参加した研修生は、研修参加後、自組織の業務改善や人材育成に取り組んでおり、研修参加が強い動機付けの機会になったと評価されています。

4. 6年間のあゆみ（3部門の軌跡）

【研究支援部門】

看護部における研究活動を推進するため、以下のような取り組みを展開しました。

I. 第一段階（令和2年～令和5年）

1. ニーズ調査による現状の把握

看護研究に対する具体的な支援策を検討するため、当院看護部の看護職を対象に研究支援に対するニーズ調査を実施しました。その結果、看護職から専門家による助言や自由に活用できる相談窓口の設置、研究に関する研修の実施などのニーズが明らかになりました。

2. 研究支援体制の整備と具体的な仕組み

調査結果を踏まえ、看護部と看護学科が協働し研究を推進する体制を整備しました。

- 1) 毎月第1水曜日に「看護研究相談会」を開催し、研究計画の準備段階から担当者が相談に応じる相談窓口を整備しました。
- 2) 研究計画書の作成から倫理審査、抄録・原稿作成、論文投稿に至るまでを支援できるように、看護学科教員による研究支援体制を整備しました。

II. 第二段階（令和6年～現在）

1. 研究支援体制の再整備

第一段階で整備した研究支援体制は、テーマや研究目的の検討といった初期段階の支援が不足していました。そのため以下のように研究支援体制を変更しました。

1) 初期段階からの介入

研究テーマの検討や研究計画書作成の初期段階から支援を受けられるよう見直しました。



4. 6年間のあゆみ（3部門の軌跡）

2）研究者と研究支援者のマッチング

看護学科と年間の研究計画を共有し、看護職のニーズや研究テーマに応じて最適な支援者を割り当てるマッチング体制を整備しました。研究支援者には看護学科教員や看護部の大学院修士・博士課程を修了した看護職など、専門的な知識と経験を有する人材を充てるようにしました。

3）「看護を探究する会」の創設

令和7年度、研究の「種」を気軽に相談できる場として、新たに「看護を探究する会」を設置しました。この会は、「研究に関心はあるが、進め方が分からない」「日常の疑問が研究になるか判断できない」といった看護職を対象に、参加者間の自由な議論を通じて、日々の看護実践を研究テーマへと昇華させることを目的としています。

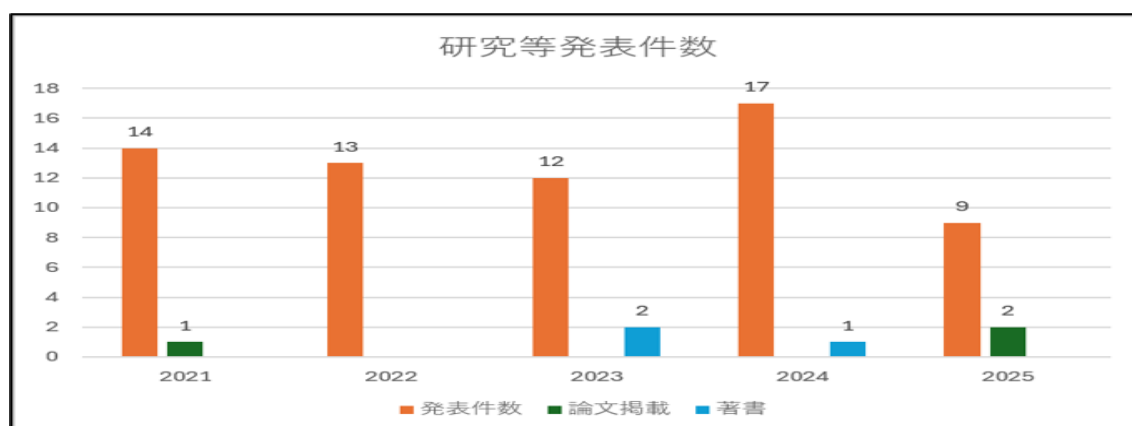
体制整備にあたっては、相談窓口の役割を以下のように明確化しました。

「看護を探究する会」：初期段階のテーマ選定や、漠然とした悩みの受け皿

「研究相談会」：具体的な計画書作成や倫理審査の準備など、専門的な助言を行う場

これにより、相談内容に応じた効率的な支援体制へと最適化を図り、あわせて研究支援者のマッチング体制により、個別指導への移行が円滑に進んでいます。今後も、利用者の利便性向上と支援全体の効率化を目指していきます。

Ⅲ. 活動実績



研究発表実績（一部抜粋）

	研究課題名	発表学会名・掲載雑誌名等
令和3年度	A大学医学部附属病院における看護師の看護研究に関するニーズ調査	第52回日本看護学会学術集会
	NICU看護師が継続して行うグリーンケア	第27回大分県小児保健学会
	多職種が行う小児がん患者への小学校就学に向けた支援	第19回日本小児がん看護学会
	原発性悪性脳腫瘍患者へのACPカンファレンス導入による看護師の意志決定支援に関する看護実践の変化	第8回日本CNS看護学会
令和4年度	ICUに入室した重症小児患者の家族への看護に関する文献研究	第18回 日本クリティカルケア看護学会学術集会
	糖尿病セルフケア能力測定ツールを活用した療養支援での冠者・看護師間の相互作用の検討ー入院時と退院時の比較ー	第27回日本糖尿病教育・看護学会
	精神科リワークデイケア専従看護師技術評価表作成に関する文献研究報告	第67回 九州精神医療学会
	高齢がん患者の手術療法に対する意思決定の様相	第37回日本がん看護学会学術集会
令和5年度	部署を超えたコラボレーションマネジメントへの挑戦	令和5年第1回認定看護管理者会、九州・沖縄ブロック研修会
	「ステロイドによる心筋への抗炎症効果がT波高を変化させたことがT波のオーバーセンスの原因と考えられたCRTD植え込み後心サルコイドーシス症例」	第69回日本不整脈心電学会学術大会
	「家に帰りたい」思いが強い小児がん患者と家族の終末期の過ごし方への看護師による支援	第29回大分小児保健学会
	卒後2年目看護師のプロアクティブ行動と影響要因	第27回日本看護管理学会
令和6年度	がん患者における化学療法皮膚障害に対する化粧療法のQOL向上効果の検討	第9回日本がんサポーターケア学会
	A病棟の手指衛生改善に向けた感染制御部の支援	第12回日本感染管理ネットワーク学会学術集会
	スライドシートを用いた体位変換による腹臥位時間の延長とその効果	第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会
	知的障害を有する重症心不全患者に対してB型就労支援施設との協働によりハートノート導入を行った1例	第28回日本心不全学会学術集会
令和7年度	看護職の就業管理を可能にする勤務体制への挑戦ー看護管理者のマネジメントプロセスを振り返ってー	第56回日本看護学会学術集会
	ドクターヘリ搬送患者へのフライトナースの看護実践と専門性	第27回日本救急看護学会学術集会
	咀嚼・嚥下機能が低下した患者に対するパン提供制限の取り組みとその効果	第20回医療の質・安全学会学術集会
	新人看護職における社会化の様相	第22回日本医療マネジメント学会 九州・山口連合大会

4. 6年間のあゆみ（3部門の軌跡）

【地域交流推進部門】

1. 研修の評価および地域のニーズを踏まえた研修のあり方の検討

平成23年度より、専門看護師・認定看護師による地域の看護職を対象とした研修会を実施してきました。これまでの活動を評価した結果、医療・社会状況や地域の看護職の学習ニーズに応じて、研修テーマや内容、実施方法を工夫しており、参加者からも高い評価を得ていたことから、「エビデンスに基づいた看護実践の方法や技術の提供」という目的に一定の役割を果たしてきたことが確認されました。

一方、県内の専門看護師・認定看護師の増加、学習機会・手段や働き方の多様化、新型コロナウイルス感染症の影響などを踏まえ、地域の看護職の学習ニーズに応じた研修のあり方を再検討しました。令和4年度からオンライン研修の導入を支援するなど、研修方法の多様化を進めました。

令和7年度は、集合研修3分野（救急看護、脳卒中リハビリテーション看護、看護倫理）、見学実習4分野（皮膚・排泄ケア、認知症看護、手術看護、緩和ケア）、オンライン研修3分野（がん化学療法看護、心不全看護、急性・重症患者看護）を実施し、延べ87名が参加しました。

2026年度『専門・認定看護師地域貢献研修』の内容

**2026年度 大分大学医学部附属病院看護部
専門・認定看護師 地域貢献研修案内**

地域の看護職の皆様へ、専門看護師・認定看護師による実践的な研修プログラムをご用意しました。各プログラムへの参加をお待ちしております。お気軽にご参加ください！

集合研修

開催日時: 2026年12月5日 13時30分から17時
開催場所: 大分大学医学部附属病院 当日案内
参加費: 無料 受付: 13時から

分野	テーマ
感染管理	院内感染管理担当者のための事例検討会 ～感染症発生時の対応を検討する VRE対策を中心に～
救急看護	みつけよう！急変徴候
脳卒中リハビリテーション看護	脳卒中知って学んで予防する

見学実習

開催日時: 下記開催日参照 8時30分から16時(予定)
但し、糖尿病看護のみ13時～16時(予定)
開催場所: 大分大学医学部附属病院玄関集合 当日案内
参加費: 無料 ※白衣・シューズを持参してください

分野	テーマ	1回参加人数	開催日
がん化学療法看護	来て！みて！わかる！がん薬物療法看護	4名	12月8日
がん看護・緩和ケア	基本的な専門的緩和ケアってどんなこと？ 緩和ケアチームと一緒に考えませんか	4名	12月8日
急性・重症看護・集中ケア・クリティカルケア	これって怖い！ 人工気道(気管カニューレ・気管チューブ)挿入中の患者ケア	4名	12月3日
手術看護	手術患者にとって安全・快適な術前看護を考えよう ～術前看護の実際を通して～	4名	11月26日 12月3日
糖尿病看護	「透析になりたくない」を支える支援 ～糖尿病予防指導の実際を見学してみよう～	3名	12月3日
認知症看護	入院前の生活情報を活かしたせん妄予防 ～身体拘束に頼らない支援を共に考えよう～	3名	11月17日 12月3日
皮膚・排泄ケア	「これならできる！」を信じて進もう ～褥瘡予防と褥瘡予防のリアル見学～	4名	11月17日 12月3日
慢性心不全・心不全	心不全患者を支える看護・外来連携の実際 ～入院予防に向けた心不全チームの活動を見学しよう～	4名	11月26日

【お申込み】
10月30日までに右のQRコードよりお申し込みください
【問い合わせ】
TEL 097-586-6132(教育担当副看護部長)
メール kyouiku@oita-u.ac.jp

主催: 大分大学医学部附属病院看護部 専門・認定看護師会

4. 6年間のあゆみ（3部門の軌跡）

【地域交流推進部門】

2. 大分県内における専門看護師・認定看護師のネットワーク構築に関する支援

『認知症看護認定看護師の会』は、認知症看護認定看護師（DCN）が知識や実践を共有し、地域の認知症ケアの質向上を図ることを目的に、看護職キャリア開発支援センターの支援を受け、2023年に発足しました。現在は、情報交換や相談、活動内容の共有、市民公開講座などを行っています。

市民公開講座では、当事者の声を直接聴き、DCNとして学び続けることや、当事者・家族の声に寄り添うことの重要性を再認識しました。また、地域住民の理解促進やDCNの役割周知にもつながる取り組みとなりました。今後も年3回の活動を継続し、会員にとって「必要な会」と感じられるよう、DCN同士のつながりを大切にしながら運営していきます。

〔認知症看護認定看護師 福田香織〕

📷 DCNで企画・実施した市民公開講座（2025年3月22日ホルトホール大分にて開催）



4. 6年間のあゆみ（3部門の軌跡）

【地域交流推進部門】

3. 大分大学医学部附属病院市民公開講座の企画・開催支援

令和5年度より、専門看護師・認定看護師による市民公開講座の企画・開催を支援しました。

年度	テーマ	参加者数
令和5年度	がんになっても自分らしく生きるために	39名
令和6年度	認知症になっても安心して暮らしていけるために ～認知症看護認定看護師からのメッセージ～	48名
令和7年度	自分らしく、生き生きと暮らしていくために ～心不全パンデミック時代に看護師と栄養士が伝えたい健康習慣～	33名

📷 市民公開講座の様子（2026年3月7日ホルトホール大分にて開催）



4. 専門看護師・認定看護師が実施する看護相談「れんげ草」再活動の検討

平成31年3月に看護相談「れんげ草」を開設しました。その後、これまでの活動を踏まえ、専門看護師・認定看護師の専門性を活かした患者・家族への看護相談のあり方について、専門看護師・認定看護師会議で検討を重ねました。その結果、患者・家族の療養生活を支援し、医学部附属病院の外来機能をさらに充実させるため、専門看護師・認定看護師による看護外来の開設を予定しています。

4. 6年間のあゆみ（3部門の軌跡）

【地域交流推進部門】

5. 看護職以外を対象とした研修会の企画・開催支援

令和7年度に、由布市の小・中学校の養護教諭を対象とした研修会「糖尿病看護～1型糖尿病の学校での心配事項と低血糖の対応～」を、小児看護専門看護師と糖尿病看護認定看護師の共同企画により開催し、15名が参加しました。研修を契機に、学校・家庭・医療機関をつなぐ相談体制や、相談しやすい関係づくりが今後の課題として見いだされました。

外来で糖尿病の子どもや保護者と関わる中、学校生活での悩みを聞くことは多いです。一方、学校関係者と直接情報共有する機会は限られていました。今回、由布市養護教諭部会からの依頼を小児看護専門看護師と協力し、医療と学校の連携を目的とした研修を実施しました。研修では、1型糖尿病の基礎知識や低血糖の対応等の講義に加え、普段触れる機会の少ない血糖測定やインスリン注射を実際に体験してもらいました。また、意見交換では緊急時の対応や食事、学校生活での判断など、日頃抱えている不安や困りごとが語られ、その場で助言を行いました。結果、「こんな時はどうしたらよいか」と相談できる場となり、子どもを支援したいという共通の思いを通して医療者と養護教諭が顔の見える関係でつながる貴重な機会となりました。

〔糖尿病看護認定看護師 大末美代子〕



5. 6年間の成果と考察

当センターは設置以降、「医学部附属病院」と「医学部看護学科」の強固な連携（ユニフィケーション）を軸に活動を展開してきました。

この6年間の歩みを経て、3つの部門による多角的な取り組みは、センター全体として確かな実績へと結実しています。

第一の成果は、個々の主体性に寄り添う「キャリア開発支援体制」の確立です。ポートフォリオやキャリアシートの導入、そして入職2年目研修の再編成で、看護職一人ひとりのキャリア形成に伴走する育成体制へと進化を遂げました。さらに、実地指導者研修に卒前学生の参加をくわえることにより、早期からのキャリア支援の基盤も根付いています。

第二の成果は、現場の疑問を形にする「臨床看護研究の実績拡大」が挙げられます。看護学科教員との強固な連携によって開設された「看護研究相談会」が中核となり、日常の臨床現場で生まれる疑問を研究へと繋げる支援体制が定着しました。疑問を言葉にし、自由に語り合う場作りが研究へのハードルを下げ、取り組みへの橋渡しとなっています。

第三の成果は、地域連携を具現化する「地域の病院関連施設との人材交流・ネットワークの発展」です。地域のどこにおいても質の高い看護が提供されることを目指し、大分県内の専門看護師・認定看護師のネットワークづくりを進め、認知症看護認定看護師の会構築を支援しました。また、市民公開講座、養護教諭向け研修などへ活動を広げ、市民と地域の関係職種が学び合い、連携する基盤へと発展させています。

第四の成果は、これらを統合した「院内外の学びの循環」の実現です。高度な専門性を地域へ還元する活動を蓄積したことで、院内と地域の間で知を双方向に循環させる先進的なフェーズへと移行しています。

6. 今後の展望

この6年間の確かな歩みと蓄積されたリソースをベースに、2030年を目指した今後のさらなる発展を目指した取り組みを展開します。

教育プログラム開発部門

看護基礎教育におけるコンピテンシー基盤型教育（CBE）への転換に合わせ、知識・技術・態度を統合した「コンピテンシー（実践能力）評価」を院内で導入し、卒前・卒後のシームレスな教育体系を構築します。また、地域病院との人材交流や連携基盤を活かした研修プログラムを展開し、互いの強みを活かして地域全体の看護職が共にキャリアアップできる協働体制を確立します。

研究支援部門

臨床の疑問を確実に院外での学会発表や論文投稿（エビデンスの発信）へつなげるため、着想段階からの相談支援や看護学科教員とのマッチングを行い、継続的な研究支援体制を強化します。研究を通してエビデンスのある看護実践の推進と看護の質向上を目指すとともに、臨床課題の解決や看護実践の変革につながる研究を支援します。さらに、研究成果を現場へ定着させる実装研究を推進し、臨床に根付く研究活動の活性化を図ります。

地域交流推進部門

地域のニーズに応じた専門看護師・認定看護師による研修活動や、人材交流・看護外来を充実させ、互いの専門性や実践知を共有し、地域の人々を中心とした地域連携・協働の発展を目指します。

6. 今後の展望

ユニフィケーションを基盤とした「よりよい実践の双方向循環」

院内

医学部附属病院
高度な専門性・知の蓄積

院内の知を地域へ

地域の課題を院内へ

地域

地域医療機関
訪問看護ステーション
現場の課題・実践ニーズ

教育プログラム開発部門

- 卒前・卒後のシームレスな教育
- 地域病院との人材交流や連携基盤を活かした研修プログラムの展開



地域交流推進部門

- 地域のニーズに応じた研修・人材交流
- 看護外来の本格開設

研究支援部門

- マッチング体制の最適化
- エビデンスの発信
- 研究成果の実装の推進

ユニフィケーションによる地域看護力の底上げ
～地域全体で共に学び、育ち続ける看護へ～

お問合せ

大分大学医学部附属病院看護部

〒879-5593

大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地

電話番号 097-549-4411（代表）

センター専用ページ QRコード

